

名を呼び続けて行ったその顔！ 顔！ 顔！・・・

私が鹿児島商業の学生達といっしょに会って話したり練習したりした時間は、わずか五時間か六時間くらいではなかったかと思うのですが、別れを惜しんで涙を流しながら送ってくれたその顔！ 顔！ 顔！・・・は忘れることができません。その純情さに感激に打たれたのでした。

鹿児島島といえば忘れることのできない人が幾人もおられるのです。まず亡くなられた倉内勝義先生です。私が昭和十年二月十四日、鹿児島高等商業学校で講演、翌十五日講習、十七日練習会をしたときの受講者の代表でした。すぐ速記部をつくられたばかりでなく、私が県内各中等学校で講演講習をした後をうけて、鹿児島高等商業学校主催で県下中等学校中根式速記競技大会を開かれたのでした。それまで上級学校が主催して競技会を開かれたことは一回もなかったのです。全く全国最初の催しでした。非常な先覚者だったのです。私はこの競技大会のとき作られた手拭いを持っていたのですが、この記念手拭いを鹿児島に持って行って、あるときトラックに乗せてもらったとき失ったのは誠に残念でした。先生は亡くなられるまで同校で教鞭を取っておられたのですが、速記教育については非常に力を入れられ、速記クラブを育成、率先垂範しておられたのでした。私が鹿児島に行くときはいつも学校で特別の時間をつくって講演させていただいたばかりでなく、他の学校にまで呼びかけて、講演の日程までつくっていただいていたので